働くって楽しい！

　これから働くあなたへ。大丈夫。あなたに合った仕事がきっと見つかります。今号では、自分の障がいと付き合いながら、社会の中で働く皆さんを取材しました。

問合　障がい福祉課／TEL674-7164

ID 080191
たかつき〇まるしぇ
障がいのある人が作った製品の販売を通して、就労体験の機会、自立支援、障がいへの理解促進につなげる
日時　12/5(月)～9(金)　10:00～15:00
場所　総合センター1階ロビー

「働く」ことに悩みはありませんか

　「対人関係が苦手」「体調の浮き沈みがあり社会に出るのが不安」「スキルがなく自分に何ができるのか分からない」など、働くことへの悩みや不安を持っていませんか。

　自分に合った仕事を見つけ、生き生きと働き続けられる。そんな生活を目指し、ぜひ一歩踏み出してみましょう。

就労のポイントは人間関係とマッチング

　市内の障がい者に就労についてアンケートを取ったところ、39歳以下では34.2％、40歳代で38.2％が「働いていない」と回答しています。重い障がいや病気で就労が難しい人もいる一方、就労を希望しない人、就労したくてもできない人も多くいることが分かりました。※1

※1．第2次高槻市障がい者基本計画から抜粋

　働く際の条件として、「人間関係がうまくいくこと」や「自分の障がいや病気に合った仕事であること」と多くの人が回答しています。

　相手の状況や気持ちに配慮した言動や、評価などが適正に行われる職場は働きやすく、人間関係も良好です。

　また、自分の能力が発揮できる職場や希望の雇用条件に合う職場を見つけること、マッチングが、長く仕事を続けるためには重要です。

働き続けるためサポート

　障がい者が働く際の選択肢には、企業などに就職して労働契約を結んで働く「一般就労」と、それが難しい場合に福祉サービスを受けながら働く「福祉的就労」があります。市は、本人の希望する選択ができるよう関係機関と連携し、さまざまなサポートを行っています。

　一般就労希望者には「就労移行支援」で、スキル向上訓練や求職活動、生活面での相談・支援などを実施。また障がい者就業・生活支援センター※2など関連機関と連携し、情報の提供※3や、職場見学・実習で、事前に職場を体験するサポートもしています。

　一般企業などでの就労が困難な人には「就労継続支援A型・B型※4」で、自分の障がいや体調に配慮しながら生き生きと働けるよう支援しています。

※2．障がい者の就労を支援する機関（16ページへ）
※3．障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律（5/25施行）より
※4．A型は雇用型、B型は非雇用型（14・15ページへ）

自信や生きがいを持って働く3人をご紹介します

Interview1
加藤立也さん

知的障がい
株式会社 富喜屋

Q　どうやってこの職場を知ったの？
A　ワークスポットを通して紹介された
Q　どんな仕事をしているの？
A　弁当箱の洗浄や仕込み作業など

①②真剣な眼差しで食器を整理し、洗浄機に流し込む加藤さん。一つ一つの作業を丁寧に行います。③他のメンバーとの共同作業のため、連携が大切。お互いコミュニケーションを取りながら作業を進めます。ちなみに職場では22歳の加藤さんが一番若く、“お母さん世代”のメンバーからとても可愛がられているそうです。

④職場の入り口には、弁当を提供する保育園、幼稚園園児からのお礼のメッセージを掲示。加藤さんもこれを見て、自分の仕事にやりがいを感じるように。⑤富喜屋のサバのお弁当。管理栄養士がバランスのとれたメニューを考え、毎日食事を提供しています。加藤さんもランチはいつも富喜屋の味を堪能。美味しすぎて体重が増え、「食べ過ぎてお母さんに注意されるんです」とはにかみます。

⑥昨年まで通っていたワークスポットの管理者・仲津秀行さん（右）と森満莉恵さん（左）。当時から加藤さんは、誠実で真面目。友人がお休みするときは、代わりに進んで作業を担ってくれる、心優しく責任感のある青年だったそう。ワークスポットで養った知識やスキルが基礎となり、今の加藤さんを支えています。

たまには落ち着き、仕事に全力で。

弁当の製造工場で、ひたむきに洗浄作業を続ける青年がいます。中度の知的障がいのある加藤さんです。高校卒業後、3年間通った就労移行支援事業所※5“ワークスポット”からの紹介で、昨年7月から株式会社富喜屋に就職。当初は研修生として徐々に就業時間を増やし、今年1月からはフルタイムで勤務しています。

※5. 一般就労に向けての訓練や求職活動への支援、職場定着のための支援などを行う事業所

日々工夫
仕事に誠実に、真面目に

主な仕事は、食べ終わって回収されたお弁当箱を洗浄することです。「洗浄機に流すのにも、色々な工夫があります」と加藤さん。お弁当箱に残るゴミをうまく落とす、後ろの工程のタイミングを見て流すスピードを考える、など複数人で作業することの難しさも日々感じています。

平日朝9時半から夕方5時まで、立ちっぱなしの作業。お湯で洗浄するため、「夏場は特に体力が必要なんです」。大変な作業でも弱音を吐かず、誠実で真面目に働く加藤さんは、周囲からの信頼も厚く、「言われたことはしっかりとやれるし、挨拶もちゃんとできる。今の仕事ぶりで全然問題ありません」と職場の同僚も太鼓判を押します。

パニックから反省
メンバーの意識変える

「理解するのに時間がかかってしまい、一度にたくさんのことを言われたらパニックになるんです」と自身の特性を話します。受け入れを担当する大場課長は、「加藤さんが働き始めて1カ月が過ぎ、就業時間をフルタイムにし、安心していた矢先、加藤さんが震えながら私の所に駆け込んできたんです」。事情を聞くと、午前と午後でメンバーが入れ替わるため、細かな調整ごとが異なり、メンバーに色々と言われ、混乱した、ということでした。

富喜屋では、障がいのある人を雇用するのは加藤さんが初めて。当時、大場さんは、「どう対応してよいのか全く分からなかった」と振り返ります。

加藤さんが以前に通っていたワークスポットの担当者に連絡をして対応を相談しました。そのアドバイスを踏まえ、加藤さんの勤務時間を一気にフルタイムにではなく、徐々に延ばすように変更。メンバーとも話し合い、同時に指示を出さず、ゆっくり話すことを共有し、皆の意識を変えるようにしました。

大丈夫、一歩ずつ成長
謙虚に　前向きに

「イレギュラーなことでも、丁寧に説明すれば、ちゃんとできるようになる。大丈夫、一歩ずつ成長していますよ」と大場さん。加藤さんは、次第に仕事にも慣れ、今では洗浄だけでなく、仕込みの作業など、新しいことにもチャレンジするようになりました。「僕はまだまだ半人前」と謙虚に、できることを一つずつ増やしています。

大場さんは「加藤さんの素直で純粋な心は、一緒に働く人を変える力がある。一緒に働いていて気持ちが良いんです」と優しく微笑みます。気遣いな性格から、時々疲れてしまうこともあるけれど、真っすぐに前を向く加藤さん。「たまには落ち着きながら、仕事には全力全開で」と目を輝かせます。

comment

富喜屋　総務課課長
大場正明さん

手探りしながら尽力
働きやすい職場へ

障がいのある方を雇用するのは初めてのこと。分からないことも多く、その都度、課題を明確にして対策を検討しました。加藤さんは今後職場を支える一員で、期待の若者です。

彼が働きやすい職場環境を整えるため、一緒に考えながら仕事の方向性を決め、勤務時間や仕事内容などを調整したり、職場メンバーとも話し合い、一人一人の理解を促したりしてきました。

子育てが一段落して、再度仕事を探した與縄さん。就職情報誌で偶然家の近くの職場を見学したのがきっかけです。書類のセッティングや検査キットの袋詰めなど、どんな仕事でも積極的に取り組みます（上）（中）。職場のみんなとの団らんが安らぎに。実は夫が選んでくれる「面白Tシャツ」を仕込み、みんなの笑いを狙っています（下）

Interview2
與縄さゆりさん

身体障がい
就労継続支援A型事業所ハーモニー

Q　どうやってこの職場を知ったの？
A　就職情報誌を見て体験に
Q　どんな仕事をしているの？
A　施設内で書類のセッティングや検査キットの袋詰め、施設外ではエアコンの清掃など

“できる”を探す。前向きに 積極的に。

生まれつき両足が不自由で、前の職場まではデスクワークを中心に仕事をしてきた與縄さん。今年7月から始めた“ハーモニー”の仕事はどれも新鮮でした。

初めての業務用エアコンの清掃では、脚立に登れなくても「できる仕事がたくさんある」と、フィルターをブラッシングしたり、掃除機をかけたり、自らできる仕事を見つけました。新鮮な気持ちで「こんなこともできるんだ」と、自分の可能性を見いだしたと言います。

管理者の平田さんの提案する仕事は「配慮が行き届いていて前向きに取り組みやすい」と與縄さん。自分のした仕事で、少しでも誰かの役に立ちたい、社会に貢献したい、と思うようになったのも平田さんのおかげと言います。

「どんな仕事でも、自分から積極的に取り組むと、どんどんできることが増える。“できない”を探すのではなく、“できる”を探すと日々の仕事が楽しくなります」。

和気あいあいと仲間との会話が安心に

作業するスペースではよく利用者の笑い声が飛び交います。與縄さんがこの職場を選んだのも、事前の見学の際にこの空気感が気に入ったからだそう。平田さんを中心に、スタッフや利用者同士のコミュニケーションが常に行われ、情報の連携もスムーズに行われます。「職場の雰囲気が本当に良くて、安心して通っています」。

comment

ハーモニー　管理者
平田啓介さん

日々仲間との
コミュニケーションを

誰もが笑顔で働ける社会を実現したい、という思いで設立されたハーモニー。当施設では、病院や高齢者施設などと連携し、こちらができる仕事を引き受けます。利用者みんなが自主的・積極的に仕事に取り組めるよう、各々の状況や希望に配慮し、その仕事の意義や依頼者の声を共有します。大切なのは日々コミュニケーションを取ること。明るく楽しく、どんな仕事でも仲間となら乗り越えられる、そんな場所にしたいです。

Interview3
渡辺圭さん

広汎性発達障がい
就労継続支援B型事業所なちゅら

Q　どうやってこの職場を知ったの？
A　以前通っていた大阪市内の施設からの紹介で
Q　どんな仕事をしているの？
A　花びらの乾燥作業やカフェの看板の記入など

ハーブティーの製造過程で、一枚一枚の花びらを丁寧に広げ、並べる渡辺さん。作業をしながらも持ち前のトーク術でみんなを笑顔にしてくれます（上）。並べた花を乾燥機に入れて、生活支援員の櫻井さんと仕上がりを待ちます（中）。「カフェの看板は週に1回僕が書いているんです」と誇らしげに話す渡辺さん。書く内容は、カフェの店員さんからヒアリングをして、同僚と2人で毎回決めているそうです（下）

したい仕事を自分のペースで自分の工夫で。

とびきり明るい笑顔が輝きます。渡辺さんが、“なちゅら”に出会って約10年。ムードメーカーであり、コツコツと取り組む姿勢が、人を惹きつけます。

「ここでは冗談を言いながら楽しく仕事ができて、最高です」と渡辺さん。なちゅらには週に3回通います。最近では、ハーブティーを製造する過程で花や葉を乾燥させる加工作業に携わり、洗浄した花びらを手際よく一つ一つ丁寧に仕分けます。

繊細な一面もある渡辺さんは、過去に人と上手く付き合うことができず、塞ぎ込んでしまうこともありました。それでも少しずつ自分を奮い立たせ、周囲のサポートを受けながら社会と向き合うようになりました。

自分の書いた看板で商品が売れたらうれしい

併設するカフェのメニュー看板の作成も渡辺さんの仕事の一つ。最初はなかなか思ったように書けなかったけれど、何度も何度も書き直し、今では「自分の納得のいくように書けるようになった」と言う渡辺さん。文字のサイズや色を工夫しながら、丁寧に一文字ずつ書いていきます。「自分の書いた看板を見て、商品がもっと売れたらうれしい」とほほ笑みます。したい仕事が、自分で工夫して、自分のペースで行える「この職場で働き続けたいです」。

comment

なちゅら　管理者
島田信宏さん

チャレンジを大切に
みんなが主人公です

なちゅらでは「その人なりにほどよく」をモットーに、その人に合った働き方を大切にしています。知識や能力の向上を目指しつつ、自分のペースで働けるよう相談しながら仕事を設定。現在、新しく6次産業化を進める中でみんな手探りで仕事に取り組んでいて、渡辺さんのように挑戦してみたいという気持ちを大切にしたい。みんなが主人公です。利用者とスタッフが一緒に考え一緒に取り組んでいきます。

◆一緒に考える

障がいのある方が仕事を見つけるとき、仕事に定着するときには、さまざまな悩みや困りごとがあります。私たち「障がい者就業・生活支援センター」の活動の一つは、そのような方の相談を受け、どういう働き方をしたいか、どんな職業生活を送りたいのかを一緒に考え、方向性を決めていくことです。

◆ミスマッチ防ぐ

そのため相談では、今までの生活状況や希望している仕事、得意不得意なこと、体調、金銭的な余裕、訓練の有無などを聞き取ります。本人が考えを深めることで、改めて気付くことも多く、就職先の選択肢も増えます。また、これを行うことで就職活動や就職後の担当業務でも、企業・事業所とのミスマッチを減らし、安定した職場定着につなげています。自分の不調のサインに気付けるか、苦手なことに自分で対処できるのか、ということも社会で働く上でとても大切なことです。

就職や今の仕事に悩んでいる方はぜひ一度ご相談ください。相談を通じて考えを深め、整理し、方向性が見えてきます。他の機関との支援のネットワークも広がり、より良い就労が可能になります。

◆雇用側も支援

障がいのある方が働き続けるために、本人だけでなく、企業・事業所側への関わりも重要です。定着支援と言って、例えば直接会社を訪問して、障がいの特性に応じた助言を行ったり、雇用で生じる課題について相談を受けたり。最近では雇い入れ前に相談を受けることも多いです。

ポイントは、私たち支援者がいなくても、ゆくゆくは障がい者本人と企業が良い関係性を築くこと。そのためにはお互いの希望や方向性を確認しミスマッチを減らすことが大切です。

◆理想の生活へ

就職が決まれば終わりではありません。就労を通して、その人その人が送りたい理想の生活に向け、私たちが全力で応援します。

障がい者の就職支援 利用の流れ

①予約
電話・ファクス・メールで面談日時を決めます

②面談・登録
当センターで面談を受け、登録します

③職業準備訓練
必要に応じて、働くために有効な訓練施設を紹介します

④就職活動
当センターと一緒に作戦を立てます。職員が必要に応じてハローワークや採用面接に同行します

⑤就職後のフォロー
働き続けるための支援が受けられます。登録者の集いなどもあります

相談内容の例
（障がい者）
・就職したい
・職場でうまくいかない
・職業生活で困っている　など
（事業者・企業）
・雇用に不安がある
・情報がほしい　など

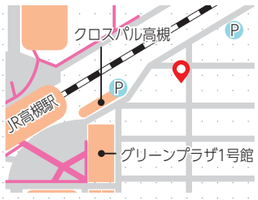
障がい者の就業・生活をサポート

働きたい、雇いたいを応援します

森川晶平さん
高槻市障がい者就業・生活支援センター所長

【センター概要】　ID 002509
府内18カ所に設置される同センター。高槻市と島本町では国・府から委託を受ける社会福祉法人「花の会」が業務を行います。障がいのある人（種別問わず）の就業と生活に関するさまざまな支援のほか、事業者・企業からの相談にも応えます。

場所　高槻町4-17　※土日祝休み
TEL668-4510、FAX668-4530
Mail:skip4510@tiara.ocn.ne.jp



トピックス
Topics

ともに働く

ID 002454
「障がい者雇用促進法」により、一定規模の事業者は法定雇用率以上の障がい者を雇用する義務があります。障がい者の中には、障がいや病気のことをオープンにしていない人や障がい者として扱われることを望まない人もいます。同僚が困っていること、悩んでいることに配慮し、助け合うことが必要です。

訪れる

ID 002496
就労継続支援事業所などの就労施設では、一般客に食事を提供したり、制作した雑貨を販売したりしています。「たかつき〇まるしぇ」のような展示販売や、その他の催しにも参加。見かけたら、一つ手に取ってみませんか。話のきっかけになり、また購入することで生活支援にもつながります。

困っている人に、声を掛けることから

地域で共に暮らす、生活する

障がい者と、地域社会の中でともに暮らす。それは特別なことではなく、仕事や学校、スポーツ、芸術、趣味、その他にもさまざまな場面で接する機会があるでしょう。誰しも一人では生きられません。もし困っている人がいたら、声を掛け、手を差し伸べる。優しく温かな社会へ向け一人一人が考え、行動してみませんか。

見る・聞く

障がい者の中には、絵画や工芸、音楽など、芸術に優れた人も。今年7月に開催した「高槻アートチャレンジ」では、絵画作品を展示。4日間に延べ788人もの人が来場。そのほかにも福祉展などの催しでは、芸術家たちの作品と触れ合えます。（23ページに「福祉展」ID 077189）

運動する

スポーツの世界で活躍する障がい者も多くいます。一緒にスポーツで汗を流してみませんか。障がい者スポーツの催しなどが定期的に開催されていますので一度参加してみては。（29ページに「障がい者スポーツ講習会　ショートテニス」ID 029487）

学ぶ・支援する

障がいについて深く理解するために学ぶ機会や、サポーターとなって支援するスキルを身に付ける機会があります。また交流会などで、一緒に過ごしお話することも支援につながります。